

AMCoR

Asahikawa Medical College Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録 () 平成19年度:94.

看護師の自己効力の変化を検討する

西岡, 理恵 ; 阿部, 由希子 ; 尾形, 千悦

看護師の自己効力の変化を検討する

集中治療部ナースステーション

○西岡 理恵 阿部 由希子 尾形 千悦

【 目的 】

I病棟では、ICU経験3年以上の看護師が7名、3年未満の看護師が12名とICU経験が少ない看護師が多い。そのため、知識、経験不足により自信が持たず、適切に判断することが出来ないと考えた。知識は、学習の情報で習得される。しかし、行動を起こすためには、その行為に対して自信を持つことが必要である。

そこで、学習会、シミュレーションによって、看護師の自己効力が高まるか明らかにしたことをここで報告する。

【 研究方法 】

研究対象は、I病棟看護師19名。ICU経験3年未満の看護師が12名、ICU経験3年以上の看護師が7名である。アウトカム指標として、一般性セルフ・エフィカシー尺度を使用して学習会、シミュレーション前後で比較する。一般性セルフ・エフィカシー尺度は、「行動の積極性」「失敗に対する不安」「能力の社会的位置づけ」の3因子16項目について自己評価する。回答方法は、2件法となっている。

【 方法 】

学習会、シミュレーション方法は、口腔外科医師による口腔ケアの必要性、歯科衛生士によるブラッシング方法をDVDに撮り、全員が学習会に参加できるようにした。シミュレーションは、看護師3名1グループで行い、今までの歯磨き方法、推奨されている口腔ケアを実施した。その後、観察役から良い所、悪い所を伝え、実施者にも感想を聞いた。

【 結果、考察 】

行動の積極性は、3年未満の看護師の平均値が高かった。バンデューラは、「認知されたセルフ・エフィカシーが高いほど行動遂行に費やす努力が増す」と述べている。経験が少ない分、行動、行為において興味、関心を持っていたと考えた。そして、今回の学習会、シミュレーションが動機づけとなり、今後の意識的な行動に結びつく事になると考えた。

3年以上の看護師の平均値は、変化がみられなかった。これは、今までの失敗、成功体験を経験している事で判断、実践能力が身につけていると事が影響していると考えた。ベナーは、「中堅経験に基づいて重要な要素を把握している。状況の変化に対応でき、どんな状況でも自信を持って迅速かつ柔軟に対応できる」と述べている。今回のシミュレーションは、色々経験している中での1つの行為であるため、今回の結果に結びつかなかったと考えた。

失敗に対する不安は、3年以上の看護師の結果から、シミュレーション前後の平均値から不安を感じていないという結果であった。これは、成功体験を得ているためと考えた。その反面、3年未満の看護師の平均値が高いという結果であった。これは、成功体験が少なく、処置に対して自信がないという現状だと考えた。しかし、2回目の3年未満の看護師の平均値の結果から不安感が軽減していた。セルフ・エフィカシーを高める方法で最も多いのは、「達成経験をさせる事によって自信をつける事である」と、坂野らは述べている。学習会、シミュレーションにより、知識、技術の習得により達成経験が得られ、自信を持って処置に取り組む事が出来ると考えた。

能力の社会的位置づけは、3年未満、3年以上の看護師共に平均値の差がみられなかった。

GSES合計点、評定値は、3年未満の看護師の点数が上昇している。これは、成功体験を得た事から、自分ではできるという自信が得られたと考えた。そのため、3年未満の看護師においては、自己効力に変化をきたしたと考えた。

【 結論 】

学習会、シミュレーションは、3年未満看護師の行動の積極性、失敗に対する不安に変化がみられ、自己効力感が高まった。

3年以上の看護師は、1つの行為では、自己効力感に変化がみられなかった。